エンジニアパーク Engineer Ring Park

小形　孝（おがた　たかし）

●水産部門（水産水域環境）

勤務先

公益社団法人　北海道栽培漁業振興公社　調査事業本部

➡次号は、峰　寛明さん（水産部門）

私は札幌出身です。大学卒業後は北海道漁連でエゾバフンウニの種苗生産技術の開発等をしていました。

1981 年（昭和 56 年）に現在の栽培公社に入社し、漁業影響関係の調査を担当して現在に至ります。調査は開発行為に伴う河川、海域への影響の把握、予測、評価を行うものが殆どで、その中でも海域に拡散する河川水によるホタテガイやホッキガイ漁場への影響調査が、想定される影響も大きく、漁業者の関心も高いものがありました。

今考えると、調査技術や解析方法も多くは大学の先生に指導していただく状態で、よくやってこれたものと思います。現在は、漁業協同組合の合併や、職員の減少により、浜の声を的確に伝えられる人も減ってしまったように感じます。開発行為の目的や伴う保全対策を漁業者にわかりやすい言葉で説明し、解決策を見いだすのが栽培公社の役割と考えています。

栽培公社にも先輩の技術士は数名おりましたが、私が取得することは考えませんでした。しかし、業務の発注形態の変更などからの必要性もあり、自分が携わってきた水産水域環境で受験しました。受験勉強は大学の同期から北海技塾を勧められ、大勢の方の指導、励ましもあって合格することができました。今後は、これから受験する人たちのためにお手伝いができればと思っています。

現状の水産環境は地球温暖化や魚離れなど、良くなる要因はなかなか見いだせません。しかし、水産業が本来持っている生態系サービスを有効に活用することによって、打開できると思っています。

趣味は、学生時代から「無線と実験」、NMM を購読しています。

伊藤　勝也（いとう　かつや）

●建設部門（鋼構造・コンクリート）
総合技術監理部門

勤務先

中央コンサルタンツ株式会社　札幌支店　技術部

➡次号は、高平　薫さん（総監／建設部門）

入試して数年たった頃から体力不足と体重増を感じ、健康管理のために走り始めました。走れるのは週 1 ～ 2 回程度ですが、最近では週末に 20 ～ 30km 程度走る事もあります。昨年は 6 月に千歳マラソン、8 月に北海道マラソンでフルを完走しました。目標はサブ 4（4 時間を切る）だったのですが残念ながら達成できませんでした。50 歳突入前にはもう 1 回サブ 4 に挑戦したいと思います。

人生はマラソンに例える事がありますが、我々の仕事もそうだと感じます。レース本番よりはその前の練習。実際フルマラソンを完走するためには日々の練習が大事になってきます。週末毎に 30km も走る事は正直嫌になる事もありましたが、体調の悪い時は休みながらですが計画的に何とか練習できました。技術士の資格試験への挑戦も同じだと思います。合格するためには先輩技術士の指導や家族の協力も必要となりますが、計画的に勉強していく必要があります。しかし、建設コンサルタントは日々忙しく、仕事に追われる毎日を過ごしていると時間の確保が容易ではありません。計画的と言えないかもしれませんが私が実践したのは、やる気のあるときに勉強することでした。例えば「技術士の合格発表で不合格だった直後」、「合格した人の口頭試験の時期」、「技術士受験申し込み直後」等、やる気の起きる機会は沢山あると思います。明日から始めようでは無く、今から始めようと考える事が大切だと思います。

技術士建設部門への登録が平成 14 年 3 月であり、技術士となってから早 11 年が経ちました。年を取ったせいか仕事が忙しくなったのか最近月日が経つのが早く感じます。最近は今まで経験していない仕事をする機会にも恵まれており、別の技術士資格の勉強も計画的に始めようと考えています。